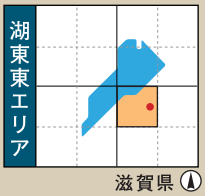
NO.083

名勝

国指定

金剛輪寺明壽院庭園

秦荘町松尾寺　平成2年8月4日指定



湖東三山、西明寺と百済寺に挟まれた、真ん中に位置する寺院が金剛輪寺で、天台仏教文化の宝庫として知られます。金剛輪寺の本坊が明壽院で、庭園は書院に沿って南庭、東庭、北庭と、築庭時期が違う庭に分かれる珍しい構成になっています。

当時のできごと	
741年	聖武天皇 国分寺造立の詔
1274年	元軍博多に上陸 （文永の役）
1534年	織田信長生まれる

金剛輪寺について

湖東三山という呼び名が、いつ頃から定着したのかは明らかではありませんが、鈴鹿山系のふもとには、長寿寺、大覚寺、百済寺、金剛輪寺、西明寺、敏満寺など、数多くの天台寺院が建立されました。金剛輪寺は、天平13年（741）に聖武天皇の勅願により行基が建立し、慈覚大師円仁が中興したと伝えられ、近江守護佐々木氏の崇敬を受け寺観が整えられました。湖東の天台寺院の例に漏れず、織田信長の攻撃を受けますが、比較的被害は少なく、本堂、三重塔は焼け残りました。その後、徳川幕府の援助により復興し、現在に至っています。



明壽院庭園　北庭



明壽院庭園　北庭

明壽院庭園

金剛輪寺には多くの坊がありましたが、今に残るのは学頭を努めた明壽院などわずかで、多くは遺跡として、その跡を境内にとどめています。庭園は、現在本坊として、使われている明壽院の書院に面します。

庭園は中門の入り口から始まり、入ったところが南庭と呼ばれる池庭で、自然の地形を利用して刈り込みと多数の石で豪快な滝組を作り、池には自然石の石橋を架けます。これに続く東庭は、中心となる庭で、広く開け池には亀石を配します。右側は茶室水雲閣を取り込み、北東の山際には高さ6mにも及ぶ枯滝石組を配します。さらに北に広がる北庭は、満々と水をたたえる池を中心とし、枯滝、橋などを要所に配し変化を持たせています。

作庭の時期は南庭が一番古く桃山期に造られ、順次書院の拡大に伴い、東庭、北庭が江戸時代中期までの間に整備されていったと考えられます。



明壽院庭園　南庭



明壽院庭園　南庭



明壽院庭園　東庭

関連する文化財

木造阿弥陀如来座像 （重文）（金剛輪寺）	半丈六の仏像。大仏師近江国講師経円が貞応元年(1222）から5年をかけて製作したことがわかっている
金剛輪寺の建造物 （国宝・重文）	本堂は室町時代前期の中世を代表する仏堂。三重塔は室町時代前期の建立で、長く破損したままであったが、昭和54年の修復により現在の姿に戻った

もっと深く知りたい

秦荘町歴史文化資料館　☎0749-37-4500　愛知郡秦荘町松尾寺878

秦荘町教育委員会　☎0749-37-2051　愛知郡秦荘町安孫子825

金剛輪寺明壽院庭園へのアクセス　名神高速道路　八日市インター



【参考文献】〔滋賀の美 庭〕京都新聞社　〔日本庭園史体系〕社会思想社

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月